

科目名(英)	教育実習A(Student Teaching A)/教育実習B(Student Teaching B)		
担当教員	茂野 賢治、小沢 一仁、相澤 久徳		
授業コード 開講学科	19401 19402 教職		
単位数	教育実習A 3 教育実習B 2	授業実施方法	教員の指示による
年次配当	4	開講年度学期	2022年度 前期～後期
曜日時限	前期(土曜1限)、後期(土曜1限)	教室	022(モニタールーム) 031教室 025(モニタールーム) 032教室
授業概要	<p>教育実習とは、これまでに習得した教職に関する知識や専門的知識、諸教養を踏まえて実際の学校教育現場で実践し、様々な教職の体験を積むことを目的とする。教育実習は、事前・事後指導と実習校での実地実習(本実習)からなる。4年次教育実習では、教育実習校での実地実習に向けての十分な準備を行う。そして実習校での実地での検証を行い、事後に実習の反省を行い各自の課題を明確にする。これらを通して今日の学校教育に求められていること、教師の高度な専門性に気づくこと、そして、自分自身の諸課題に気づくことが肝要である。</p> <p>事前指導では、教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等および、教育実習の意義を扱う。観察及び参加並びに教育実習校の理解については、生徒や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校の生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解することを扱う。</p> <p>そして、学習指導及び学級経営に関しては、大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践するための基礎を修得することをめざす。また、観察及び参加並びに教育実習校の理解に関しては、生徒や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校の生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解することをめざす。さらに、学習指導及び学級経営に関しては、大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践するための基礎を修得することをめざす。</p> <p>事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等を理解し、これらを通して教育実習の意義を理解することをめざす。</p>		
学習成果との関連	<p>次のリンクから「ディプロマポリシーにもとづく学習成果との関連」を見て、この授業でどのような力が身に付けられるかを確認してください。</p> <p><a href="https://www.t-kougei.ac.jp/student/kyoumu/curriculum/">https://www.t-kougei.ac.jp/student/kyoumu/curriculum/</a></p>		
到達目標	<p>教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けることができることをめざす。</p> <p>特に、これまでに理論的に学んできたことを元に、実際の教育実習校での実地実習(本実習)に向けて準備ができ</p>		

	ること、実地実習を通して理論と実践の相互関連性のある程度明確に説明できること、また、教職に要請されている基礎となる力を再度確認し、自分の課題を明確に自覚し説明できることをめざす。
授業計画	<p>教育実習</p> <p>4年次前期</p> <p>第1回:実地実習(本実習)に向けてのオリエンテーション</p> <p>第2回:教育実習における諸注意と模擬授業の計画</p> <p>第3回から第7回:学生における模擬授業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年次の模擬授業の反省を活かした模擬授業の実施</li> <li>・検討会の実施(教材研究、授業の構成、板書内容、学習指導案の内容、生徒理解、コミュニケーションのとり方、発問の質等が検討)</li> <li>・生徒役の学生からのコメントへの返答を書き、模擬授業の反省を記述する</li> </ul> <p>第8回から第28回:教育実習校での本実習</p> <p>第29回:事後指導(教育実習の反省会)</p> <p>第30回:教育実習体験報告</p>
履修上の注意	<p>【重要】履修者は、GoogleClassroomへ必ず登録、参加してください。「学習指導案」、「授業構想」、「レポート」などの課題提出や重要な連絡もGoogleClassroomから行っていく場合があります。ワード、パワーポイント使用。</p> <p>欠席3回以上で、評価をしない。</p> <p>教育実習期間中に「東京工芸大学教育実習記録」を作成し、実習校に提出すること。最終的には大学に提出していただく。これを踏まえて、後期「教職実践演習」において担当教員の指導を受ける。</p>
事前事後学習(予習、復習について)	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 自分の模擬授業の担当の際には、教材研究を充分に行い、学習指導案を作成すること。「評価の観点」には特に傾注すること。</li> <li>* 模擬授業終了後は、受講者や指導教員からの批評を踏まえて自分の課題を認識すること。実地実習(本実習)に向けて「よりよき方法・方略」を考察し準備すること。</li> <li>* 実地実習(本実習)では、実習校の指導教諭のご指導や他の教育実習生の指摘をよく反芻し、よりよき教育実践に向けて方法を工夫すること。</li> <li>* 実地実習(本実習)終了後は、本学の多くの後輩や教職課程担当教員にその経験から得た気づきや助言を提示すること。</li> </ul> <p>毎回の事前事後学習の具体的な内容は、ルーブリックを参照してください。事前事後学習は1項目あたり15から30分の学習内容になっていますので、目安にしてください。</p>
成績評価方法・基準、試験方法	<p>事前指導、本実習、反省会(事後指導)での学習活動や教育活動を踏まえて評価する。</p> <p>4年次「教育実習」では、実習校へ行く前の事前指導30%、本実習50%、反省会(事後指導)20%、の割合とする。</p> <p>原則として試験は行わない(試験を行う場合は1ヶ月前には通知する)。</p>
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	<p>提出された模擬授業の反省は、指導コメントを付けて返却する。</p> <p>また、作成・提出された「東京工芸大学教育実習記録」は、コメントを付けて返却する。</p>

教科書等	<p>「東京工芸大学教育実習記録」</p> <p>「東京工芸大学教職課程の手引き」</p> <p>小学校学習指導要領(平成 29 年告示)および解説(文部科学省)</p> <p>中学校学習指導要領総則(平成 29 年告示)および解説(文部科学省)</p> <p>高等学校学習指導要領総則(平成 30 年告示)および解説(文部科学省)</p> <p>小・中・高で使用した教科書、参考書、ノート</p> <p>参考になる WWW ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文部科学省</li> <li>・国立教育政策研究所</li> <li>・各都道府県の教育センター</li> <li>・教科書出版会社</li> </ul> <p>これらの Web サイトは、参考になるので、ブックマークしておくといいです。</p>
科目と関連する実務経験	対象外
実務経験の科目への活用	対象外
備考	